

Ⅱ 教育活動の概要

(1) 昭和62年度カリキュラム運営

カリキュラム委員会

委員長 梶 秀樹

現行カリキュラム委員会も2年目に入って、ようやく様子が分ってきたことと、従来懸案となっていたいくつかの事項の内規整備を昨年ほぼすませたことで、本年度は、ルーチン化した活動に始終した。特筆しておくべき点を簡条的にあげれば以下のとおりである。

(1) 本年度より、新しいカリキュラムによる運営が始まった。

改定の骨子は、

- ① 共通科目における必修を減らした事
- ② 分野毎の入門的、サービスの科目の指定
- ③ 1年次における特別演習の創設
- ④ 統計・情報処理科目の共通への編入であり、環境科学の教養的な部分を縮小するとともに、従来個別の専門科目の冒頭で行なわれていた他分野の学生の為の入門的講義部分を切り離し、各講義がより専門性を高められることを計っている。

(2) 修士論文の最終発表会を本年度からカリキュラム委員会の業務とした。

(3) 非常勤講師の配分枠が14単位分(4 2/3コマ, 210時間)に削減された。カリキュラムでは、15単位分を予定していたため1単位分不足となり今年度は追加配分を得て、何とか切り抜けることができた。

(4) 次の5項目を申し送り事項として、本年度のカリキュラム委員会を解散した。

1. カリキュラム作成のルール(下記)を継続して頂きたい事。
 - a) 共通科目には他の授業を重複させない。
 - b) 星印科目(入門的・サービスの科目)は重複させない。
 - c) 同一時限の重複科目は3科目以内とする。
 - d) 同じ分野の科目は重複させない。
2. 非常勤講師のコマ数を割り当て枠内に収め、追加配分は特講に回す事を検討する。
3. カリキュラム委員会の任期の再検討。
4. 他研究科の授業科目に関する内規の変更(「学際カリキュラム」を含める。)
5. 修士論文中間発表会の時期の再検討。

以下、個別の運営内容について報告する。

1. 新入生ガイダンス

昨年と同様の方針で行った。

昭和61年度ガイダンス日程表

	午 前	午 後
8日 (水)	入学式(10:00~10:26)	新入生ガイダンス (13:00~) C103 1. 研究科長挨拶 (13:00~) 2. 全体の概要と諸注意 3. カリキュラム関係の概要説明(13:30~) 4. 環境科学実習の説明 (14:00~) 5. 就職委員会の概要説明 (14:30~) <休憩10分> 6. 教職員の紹介(各自1分) (14:55~) 7. 新入生自己紹介(各自1分)
9日 (木)	1年生ガイダンス<1年生> C103 (10:00~11:30) 1. カリキュラムの詳細説明 [カリキュラム委員長] 2. 共通科目の内容説明 [各担当教官] 3. 環境科学実習の班分け [実習委員長] 2年生ガイダンス<2年生> A306 (11:00~12:00) 1. 研修科長挨拶 2. 就職について 3. 新カリキュラム・修論について	2年生修士論文テーマ発表会 C103 (13:00~18:00) 発表時間: 一人3分(発表1分, 質問2分) 口頭により学籍番号順に発表する。 *新入生歓迎交換会* 主催2年生 (18:00~20:00) 第2学群食堂 新入生・2年生・教職員参加
10日 (金)	分野別ガイダンス C103 自然環境(9:00~) [河村, 松本, 安仁屋, 小林, 田瀬, (朴)] 生物環境(10:00~) [岩城, 高野, 藤伊, 及川, 藤井, 前田, 斉藤, 中村(徹), (腰塚)] 生産環境(11:00~) [吉田, 池田, 石塚, 大羽, 多田, 田付, 手塚, 森下, 佐久間, 関, 久島, (野中)]	分野別ガイダンス C103 環境改善(13:00~) [山中, 中村, 山口, 国府田, 大橋, 下條, (野中)] 環境政策(14:00~) [河野, 中山, 藤木, 鶴野, 北畠, 安田, 阿部, 吉川, (松村)] 環境計画(15:00~) [高原, 池原, 梶, 川手, 黒川, 谷村, 土肥, 糸賀, 岩崎, 熊谷, 小泉, 佐藤, 田島, 日端, 天田, 石田]

2. 2年生の研究テーマ発表と研究計画の登録

昭和62年4月1日在席者95名の内休学2名, 昨年度発表済の2名を除き, 91名がレジュメを提出し, 87名が口頭発表を行った。

当日欠席の4名は, 学会出席, 病気などの理由書が提出され修論担当教官によって確認されたため, 研究計画の登録が行われたものと認定した。

3. 環境科学 I, II

共通必修科目である, 環境科学 I, IIは, 以下のような内容で実施した。

環境科学Ⅰ			環境科学Ⅱ		
期 日	テ ー マ	担当教官	期 日	テ ー マ	担当教官
(1) 4月13日	総論	岩城	(1) 4月17日	環境科学Ⅱの案内	高原
(2) 4月20日	大気環境	河村		環境と人間活動	山中
(3) 4月27日	地下環境	田瀬	(2) 4月24日	環境経済	河野
(4) 5月11日	海洋海洋	高野	(3) 5月1日	生活の質	鶴野
(5) 5月18日	化学物質と環境	手塚・石塚	(4) 5月8日	環境総合モデル	安田
(6) 5月25日	土壌環境	吉田	(5) 5月15日	土地利用の環境	日端
(7) 6月1日	陸域生態系(植物)	岩城	(6) 5月22日	自然環境保全	糸賀
(8) 6月8日	陸域生態系(動物)	藤井	(7) 5月29日	都市の安全性	熊谷
(9) 6月15日	水域生態系	前田	(8) 6月5日	交通システム	石田
(10) 6月22日	環境と人間	山口	(9) 6月12日	環境と廃棄物	中村
(11) 6月29日	(期末テスト)	(岩城)	(10) 6月19日	社会資本形成	小泉
			(11) 6月26日	試 験	高原

4. 環境科学特講

環境科学の最新の諸問題をトピックスとしてとり上げるこの特講は、従来外部から非常勤講師をお招きして運営していたが、非常勤講師枠が削減されたため、本年度より、研究科プロジェクトを実施しているチームを中心に、その成果を学生に紹介する形で運営した。

内容は次のとおりである。

環境科学特講

担 当	テ ー マ ・ 内 容
特講Ⅰ	「地下水と環境」
(責任者)	9/30 地下水と人間
田瀬則雄	10/1 土浦・出島巡検(面源汚染等)
	10/7 地下水障害の現状と背景 (塩水化、地盤沈下、地下水汚染)
	10/28 地下水障害と地下環境の保全
特講Ⅱ	「霞ヶ浦」
(責任者)	10/1 湖岸巡検
前田 修	11/4 保全対策の現状と問題点
	11/11 生態系としての霞ヶ浦の変遷
	11/18 自然環境の変遷と保全
	11/26・27 住民運動、自由討議(一泊)
特講Ⅲ	「意味の環境理論」
非常勤講師	12/17 意味の世界、人の世界と環境概念
瀬尾文彰	1/14 コスモスと近代世界、環境の時代
建設省建築研 究所	1/21 意味生成の空間、遺伝子・文化・出来事
	1/28 畏れの感覚／無限への回路
	2/4 愛と死の環境機械、消費社会と情報空間
	2/18 予感としての環境派建築

5. 修士論文発表会

本年度よりカリキュラム委員会担当の形となり昭和63年2月8日、9日の2日間をかけて1人当たり17分(発表12分、質疑5分)の発表会を行った。在席者95名の内、88名の発表があり、最終審査の後全員終了と認定された。

未終了者7名の内訳は以下のとおりである。

退学		1名
留学	休学	1
	論文未提出	4
	単位不足	1
計		7名